

美術博物館



没後 110 年特別展 菱田春草 故郷につどう珠玉の名画
ワークシートを手にしての親子鑑賞

菱田春草の没後 110 年を記念した展覧会は、重要文化財 3 点をはじめ、春草の名品が揃い、1 万人を越える来場者があった。様々な世代で春草に親しみ、学ぶことができるように展覧会にあわせてワークシートや散策地図なども制作した。

1 沿革

- 昭和58年 4月 「飯田市美術博物館準備事務局」を企画財政部に設置
- 昭和60年 4月 飯田市美術博物館準備事務局を企画財政部から教育委員会へ移行
- 10月 「飯田市美術博物館設立基本構想委員会」発足
- 昭和61年 3月 「飯田市美術博物館・日夏記念館基本構想」まとまる
- 4月 「飯田市美術博物館展示研究委員会」発足
- 9月 飯田市美術博物館建設にともなう飯田城址の発掘調査始まる
- 9月 柳田為正・富美子夫妻より「喜談書屋」の寄贈を受ける
- 昭和62年 6月 起工式
- 7月 美術博物館の付属施設として「柳田國男館基本構想」まとまる
- 12月 「飯田市美術博物館条例」設置される
- 昭和63年 4月 「飯田市美術博物館」として正式に発足する
- 4月 井上正館長就任
- 10月 落成式 一部公開始まる
- 11月 プラネタリウム投影開始
- 平成元年10月 8日 正式開館
- 10月 常設展示・柳田國男館・日夏耿之介記念館の公開始まる
- 平成2年 1月 須田剋太氏から同氏の作品寄贈を受ける
- 10月 飯田ロータリークラブより岩石園が寄贈される
- 平成5年 5月 電子顕微鏡装置を導入する
- 7月 上郷町との合併により、上郷考古博物館を分館とし、秀水美人画美術館を付属施設として包含する
- 平成6年 9月 井村英治氏より所蔵美術品(井村コレクション)の寄贈を受ける
- 平成8年 3月 藤本四八氏から同氏の写真作品の寄贈を受ける
- 平成9年 4月 高田由紀氏より所蔵美術品(岩崎新太郎コレクション)の寄贈を受ける
- 平成11年 3月 綿半野原総業株式会社より、綿半野原コレクションの寄贈を受ける
- 5月 熊谷みづほ氏より熊谷好博子染色作品の寄贈を受ける
- 平成14年 9月 文化庁の認める「公開承認施設」となる
- 10月 菱田春草の代表作品「菊慈童」を購入する
- 平成15年 5月 菱田春草作品「菊慈童」の購入ために「菊慈童の購入を願う市民会議」が前年9月から取り組んだ募金活動による、総額51,278,445円の寄附金を受ける
- 平成16年 3月 正宗太郎氏から正宗得三郎作品の寄贈を受ける
- 4月 追手町小学校化石標本室開設
- 12月 仲村良一氏から仲村進作品の寄贈を受ける
- 平成17年 2月 中2階を増設し学習室リニューアルオープン
- 10月 上村と南信濃村との合併により、上村山村文化資源保存伝習施設と付属施設山村ふるさと保存館ねぎや、および南信濃民芸等関係施設を包含する
- 平成18年 4月 井上正館長が退任し、新館長に滝沢具幸が就任
- 8月 第1回美博まつり開催
- 平成19年 3月 空調設備の熱源であるチラーの更新、ポンプや空調機の制御システム省エネ化、照明の省エネ改修および電力管理システムを導入する
- 4月 本年度から飯田市藤本四八写真文化賞事業を担当する
- 平成20年 4月 上町活性化委員会を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする

- 6月 開館20周年記念式典、記念講演会開催。あわせて「田中芳男の胸像等制作を願う会」より胸像の寄贈を受けて除幕式を開催する
- 6月 美術博物館ロゴマーク決定
- 6～10月 開館20周年記念として記念式典ならびに特別陳列・企画展を開催
- 7月 びはく年間パスポート会員を募集開始
- 11月 開館20周年記念第1回びはく学芸祭「伊那谷の自然と文化」開催
- 平成21年3月 ロビー空間を無料とする
- 平成22年4月 財団法人飯田市南信濃振興公社を南信濃民芸等関係施設（遠山郷土館）の指定管理者とする
- 平成23年3月 プラネタリウムリニューアルオープン（記念イベント開催）
- 平成25年3月 遠山郷土館の大規模展示更新
- 4月 株式会社上村振興公社を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする
- 平成27年3月 菱田春草生誕140年展・菱田春草生誕地公園完成
- 平成28年11月 柳田國男館が国登録有形文化財に登録される
- 平成29年3月 笹本千草氏から菱田春草未完成作品の寄贈を受ける
- 4月 飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プランを策定
- 9月 菱田春草記念室常設展示を開始
- 平成30年12月 株式会社大空企画を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする
- 令和元年7月 自然・文化展示室リニューアルオープン、自然・文化トピック展示がスタートする
- 令和3年4月 文化財保護活用課が上郷考古博物館内に移転し、上郷考古博物館および付属施設の秀水美人画美術館の運営担当課となる

2 展覧会

- 昭和63年度 特別陳列「郷土の近代彫刻・工芸」（10月）・企画展「児童生徒期の絵心」（10月）・企画展「写真で見る飯田城から美博まで」（10月）・企画展「雑木林」（11月）
- 平成元年度 第42回長野県美術展（9月）・開館記念特別展「菱田春草-空間表現の追求-」（10月）・企画展「風越山の自然と文化」（10月）・特別陳列「所蔵品展」（10月）・特別展「サラ・ムーソン」（12月）・企画展「子どもたちの世界」（1月）・企画展「日夏耿之介展-生誕100年特別陳列-」（2月）・第4回中央出品作展（2月）
- 平成2年度 企画展「知られざる須田剋太の世界」（4月）・二科長野支部展（4月）・特別陳列「デスマスチルス大白歯発見！」（5月）・特別陳列「信州伊那郡之絵図・伊那郡菌部・本草図彙」（6月）・企画展「伊那谷の昆虫」（7月）・韓国のイメージ日本展・中国のイメージ展（8月）・第43回長野県美術展（9月）・特別展「佐竹蓬平展」（10月）・企画展「紙の文化」（1月）・企画展「日夏耿之介展-その書画と遺愛の品々」（2月）
- 平成3年度 現代フランス版画展（4月）・企画展「色彩にひそむ生命感 須田剋太の抽象」（5月）・企画展「伊那谷の災害-水と土砂の猛威-」（6月）・特別展「伊那谷の人形芝居」（7月）・長野県工芸展（9月）・特別展 春草没後80周年記念「天心傘下の巨匠たち」（10月）・第44回長野県美術展（11月）・企画展「洋画の百年展」（11月）・第5回中央出品作展（1月）・企画展「日夏耿之介回顧展」（2月）
- 平成4年度 特別展「ほとばしる生命・画業50年 須田剋太展」（5月）・企画展「氷河期の生き残り-ニホンカモシカ-」（6月）・特別展「帰国記念展 原田泰治アメリカに行く」（8月）・企画展「柳田國男と信州」（8月）・第45回長野県美術展（8月）・企画展「国際宇宙記念 移動

- 宇宙展」(9月)・信州春陽展(9月)・企画展「バード・イン・アート」(10月)・企画展「伊那谷の仏教文化Ⅰ-瑠璃寺の秘宝-」(10月)・光風会工芸部長野会展(11月)・企画展「国立民族学博物館所蔵オーストラリアの先住民」(3月)・企画展「笠岡市立竹喬美術館交換展 小野竹喬展」(3月)
- 平成5年度 企画展「宇宙開発展」(5月)・企画展「ベルギー・日本交流版画展」(5月)・企画展「化石が語る富草の海」(7月)・特別展「北斎漫画の世界」(7月)・企画展「日夏耿之介回顧展Ⅳ」(9月)・第46回長野県美術展(10月)・企画展「浜松市美術館所蔵品展」(10月)・第6回中央出品作展(2月)・特別展「白隠」(3月)
- 平成6年度 企画展「生誕120周年記念 菱田春草展-郷土に残された作品を中心に-」(4月)・企画展「伊那谷の身近な生き物たち」(6月)・企画展「おかいこさま」(7月)・特別展「イタリヤ・謎と神話」(8月)・第47回長野県美術展(9月)・特別展「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展」(10月)・第5回光風会工芸部明日へのかたち展長野展(11月)・長野県博物館協議会巡回展「宮坂勝とその周辺」(1月)・特別陳列「江戸期の郷土絵画-原蓬山を中心に」(3月)
- 平成7年度 特別展「ベン・シャーン」(4月)・企画展「活断層と伊那谷の生い立ち」(7月)・日中友好版画交流展(9月)・第48回長野県美術展(9月)・特別展「飯田商家の風雅 井村コレクションの精粹」(10月)・第7回中央出品作展(2月)・企画展「伊那谷の仏教文化Ⅱ」(11月)・企画展「豊橋市美術博物館所蔵品展」(3月)
- 平成8年度 第6回南信一水会出品作品展(6月)・企画展「鉱物の世界-中平豊氏コレクションを中心に-」(7月)・寄贈記念展「藤本四八展-日本の美を求めて-」(7月)・第16回長野県工芸展(9月)・第49回長野県美術展(9月)・特別展「原弘」(9月)・特別展「神々の訪れ-天竜川流域の芸能の面-」(11月)・特別陳列「関コレクション-世界の蝶-」(1月)
- 平成9年度 企画展「チェコ・リトアニア・日本の現代版画交流展」(4月)・飯田市制60周年記念特別展「生命史20億年」(7月)・第50回長野県美術展(9月)・特別展「伊那谷の馬 科野の馬」(10月)・特別展「藤本四八展-アトリエの中の画家たち/法隆寺」(11月)・特別展「熊谷守一展」(1月)・第8回中央出品作展(2月)・特別陳列「富岡鉄斎と安藤耕斎」(2月)・特別陳列「飯田城と飯田城主」(3月)
- 平成10年度 開館10周年記念特別展「天心傘下の巨匠たちⅡ」(4月)・同特別展「長谷川コレクション展Ⅰ-ゾウ化石の発掘から復元まで-」(7月)・同特別展「人形の魔術師 川本喜八郎展」(7月)・同特別展「岩崎新太郎コレクション展」(9月)・同特別展「天竜川展」(10月)
- 平成11年度 特別陳列「長谷川コレクション展Ⅱ」(7月)・特別陳列「伊那谷の人形芝居のかしら①-伊豆木人形-」(7月)・特別陳列「富本銭と信濃の皇朝十二銭」(8月)・第52回長野県美術展(8月)・特別展「日本博物館の父 田中芳男展」(9月)・特別展「江戸南画の潮流Ⅰ-谷文晁と鈴木芙蓉-」(10月)・企画展「藤本四八展-三熊野」(2月)
- 平成12年度 寄贈記念特別展「綿半野原コレクション展」(4月)・特別展「チョウとガの魅力」(7月)・特別陳列「伊那谷の人形芝居のかしら②-桐林人形-」(7月)・特別陳列「日夏耿之介の眼Ⅰ-故郷への憧憬-」(8月)・寄贈記念展「熊谷好博子」(10月)・特別陳列「長谷川コレクションⅢ-動物の骨・現生の動物の頭骨や骨格標本-」(10月)・第1回現代の創造展(1月)・企画展「藤本四八-装飾古墳・鎌倉むさしの仏たち」(2月)
- 平成13年度 特別展「子供と楽しむ動物画展」(5月)・特別陳列「伊那谷の人形芝居のかしら③-黒田人形-」(7月)・第54回長野県美術展(9月)・特別展「聖徳太子絵伝が語るもの」(10月)・特別展「南アルプス-形と成り立ち-」(10月)・特別陳列「長谷川コレクション展Ⅳ-日本最古のオオカミ類の化石-」(12月)・第2回現代の創造展(3月)
- 平成14年度 特別展「化石芸術」(7月)・特別展「須山計一」(9月)・特別展「伊那谷の文化財-飯田下

- 伊那の特質を探る-」（10月）・特別陳列「城田孝一郎-寄託作品より-」（11月）・第3回現代の創造展（3月）
- 平成15年度 新収蔵記念 菱田春草展「菊慈童・自然と人間のフュージョン」（4月）・特別展「ブラティスラヴァ世界絵本原画展とスロヴァキア絵本芸術の巨匠たち」（7月）・特別陳列「自然の不思議-色から探る鉱物の世界-」（7月）・特別展「平山郁夫コレクション-ブッダの生涯とガンダ-ラをめぐる人びと-」（8月）・第56回長野県美術展（9月）・第4回現代の創造展（2月）・特別陳列「飯田のお練り祭り-よみがえる豪華絢爛な祭礼絵巻-」（2月）
- 平成16年度 企画展「ひと・むし・たんぼ」（7月）・企画展「平和の使者『長野絹子と青い目の人形』展」（7月）・寄贈記念特別陳列「正宗得三郎」（8月）・企画展「江戸時代の好奇心-飯田・市岡家の本草学と多彩な教養-」（10月）・特別展「京都の日本画」（11月）・第5回現代の創造展（3月）
- 平成17年度 寄贈記念特別陳列「飯田つむぎのころ-広瀬忠一の織物-」（6月）・特別陳列「原人がいた頃のシカ」（6月）・白山社奥社修理記念特別陳列「風越山とその信仰」（6月）・特別陳列「絵図でみる飯田城」（7月）・第58回長野県美術展（8月）・特別陳列「市岡家と万博の父田中芳男」（9月）・白山社奥社修理記念特別陳列「白山社奥社の扉絵」（9月）・特別展「中世信濃の名僧-知られざる禅僧たちの営みと造形-」（10月）・特別展「仲村進展」（11月）・第6回現代の創造展（2月）
- 平成18年度 特別陳列「日夏耿之介の眼-會津八一との出会い-没後20年」（4月）・特別展「富岡鉄斎展」（7月）・新飯田市誕生記念企画展「遠山大地変と埋没林」（7月）・同特別展「遠山霜月祭の世界」（10月）・特別陳列「集める楽しみ、調べる魅力-美博の自然コレクション展-」（11月）・第7回現代の創造展（2月）
- 平成19年度 特別陳列「桜-爛漫と愛惜の花-」（4月）・特別陳列「飯田大火60年-まちを変えた大災害をふりかえる-」（4月）・特別陳列「城田孝一郎の木彫」（6月）・飯田市制施行70周年記念特別展「水谷章人写真展」（7月）・企画展「中央アルプスを歩く」（7月）・第60回記念長野県美術展（10月）・飯田市制施行70周年記念特別展「絵画のなかの物語-菱田春草『王昭君』と日本美術院の歴史画-」（10月）・特別陳列「飯田町に書画あり-井村萬之助と岩崎新太郎」（11月）・特別陳列「骨は語る」（11月）・特別陳列「広瀬忠一の染めと織物」（1月）・第8回現代の創造展（2月）・特別展「藤本四八-美を追いかけた写真家の生涯-」（3月）・特別陳列「花を愛でる-うめ・もも・さくら-」（3月）
- 平成20年度 第6回藤本四八写真文化賞受賞作品展（5月）・開館20周年記念特別陳列「新指定文化財・新館蔵品展」（6月）・同特別陳列「田中芳男館蔵品展」（6月）・同企画展「ハナノキ湿地の自然史-赤き楓のかなでる交響楽-」（7月）・同企画展「信州喫茶事始-お茶をめぐる文化誌-」（7月）・同特別陳列「伊那谷の仏教絵画-聖徳太子絵伝と真宗の宝を集めて-」（9月）・同特別展「江戸南画の潮流Ⅱ 文晁・華山の新感覚」（10月）・第9回現代の創造展（2月）特別陳列「桜-春の歳時記-」（3月）
- 平成21年度 特別展「版画に見る印象派-陽の当たる午後、天使の指がそっと-」（4月）・特別陳列「日夏耿之介の眼Ⅲ-谷中安規の版画世界-」（6月）・企画展「こんなの見つけた！ ぼくのわたしの里山コレクション」（7月）・長野県在住日展日本画作家飯田展（7月）・特別陳列「天龍峽-神仙境と文雅の歩み-」（8月）・第62回長野県美術展（10月）・特別陳列「化石は語る-生物の進化と古環境-」（10月）・第10回現代の創造展（2月）・特別展「信州飯田領主堀侯-日本を動かした郷土の外様大名-」（3月）
- 平成22年度 第7回藤本四八写真文化賞受賞作品展（5月）・企画展「伊那谷の蝶蛾誌-井原道夫コレクション-」（7月）・特別展「ミュージアム・サミット美の競演-三遠南信交流展-」（9月）・特別展「獅子舞-ユーラシアから伊那谷へ-」（10月）・第11回現代の創造展（2月）・特

- 別展「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」(3月)
- 平成23年度 特別陳列「三六災害50年-伊那谷を襲った大水害をふり返る-」(6月)・企画展「小惑星が衝突した御池山クレーター」(6月)・三遠南信文化交流展「黄金の世紀-きらめく古墳文化-」(7月)・特別陳列「菱田春草-新飯田市文化財指定作品特別公開-」(8月)・菱田春草没後百年記念特別展「春草晩年の追求-日本美術院と装飾美-」(9月)・瑠璃寺開基900年記念特別陳列「瑠璃寺と天台の秘宝」(10月)・第12回現代の創造展(2月)・特別陳列「桜-印籠と謡本、飯田の古桜」(3月)
- 平成24年度 特別陳列「飯田山本 竹佐中原遺跡の旧石器」(4月)・寄贈記念特別展「滝沢具幸-地のうた-」(4月)・第8回藤本四八写真文化賞受賞作品展(5月)・特別展「大恐竜展-謎の巨大恐竜スピノサウルス-」(6月)・柳田國男没後50年記念企画展「民俗の宝庫〈三遠南信〉の発見と発信-柳田國男・折口信夫ら先学による調査研究のあゆみ-」(9月)・企画展「洋画家・正宗得三郎-疎開の地・伊那谷へのまなざし-」(11月)・企画展「長野二紀展-新たな価値あるフォルムをめざして-」(11月)・企画展「伊那谷のやきもの-飯田市一帯の窯跡とその製品-」(12月)・第13回現代の創造展(2月)・特別陳列「愛宕稲荷神社の三十六歌仙絵馬と飯田の文化」(3月)
- 平成25年度 寄贈記念企画展「なんでもかんでもカタツムリ!-飯島國昭コレクション-」(6月)・特別陳列「遠山森林鉄道」(6月)・特別陳列「りんご並木50年」(7月)・第65回長野県美術展(9月)・特別展「伊那谷の日本画-春草没後の求道者たち-」(10月)・特別展「カミとホトケの交渉史-廃仏毀釈の爪跡-」(11月)・特別展「お金の博物誌-富本銭から六文銭まで-」(11月)・第14回現代の創造展(2月)・企画展「3.11東日本大震災3周年地震と地盤災害」(3月)・第1回小中学校郡展等優秀作品展(3月)
- 平成26年度 特別陳列「飯田上飯田の文化財-丘の上の魅力再発見-」(4月)・第9回藤本四八写真文化賞受賞作品展(5月)・企画展「古代の生きもの大集合」(7月)・企画展「南信州の煙火-火の芸術に魅せられた男たち-」(7月)・特別企画「親子で楽しむ菱田春草」(7月)・国史跡指定記念企画展「伊那郡衙-恒川官衙遺跡-」(10月)・第2回小中学校郡展等優秀作品展(2月)・第15回現代の創造展(2月)・菱田春草生誕140年菱田春草生誕地公園完成記念特別展「創造の源泉-菱田春草のスケッチ」(3月)
- 平成27年度 企画展「生きもの的小べや」(7月)・特別展「信州の祈りと美-善光寺から白隠、春草まで」(10月)・企画展「飯田下伊那考古学最前線-調査・研究速報-」(10月)・特別陳列「かるたで遊ぶお正月」(12月)・第3回小中学校郡展等優秀作品展(1月)・第16回現代の創造展(2月)・特別陳列「飯田城とお練り祭り」(3月)
- 平成28年度 第10回藤本四八写真文化賞受賞作品展(5月)・企画展「飯田市藤本四八写真文化賞の20年」(5月)・企画展「高山のダイナミズム」(7月)・特別陳列「没後200年 鈴木芙蓉のいま」(8月)・寄贈記念特別陳列「城田孝一郎の木彫」(10月)・田中芳男没後100年記念特別展「日本の近代化に挑んだ人びと-田中芳男と南信州の偉人たち-」(10月)・特別陳列「代田孝一郎の木彫」(10月)・第4回小中学校郡展等優秀作品展(1月)・第17回現代の創造展(2月)・特別展「創画会70周年記念展」(3月)
- 平成29年度 国史跡指定記念企画展「飯田古墳群-いいだは古墳の博物館-」(7月)・企画展「世界最南端のライチョウがすむ南アルプス」(7月)・特別陳列「没後210年 佐竹蓬平のいま-深まりゆく画境-」(10月)・第18回現代の創造展(2月)
- 平成30年度 特別陳列世界人形劇フェスティバル記念「伊那谷の人形芝居と大森運夫」(7月)・特別陳列「没後140年 原蓬山-伊那谷の漂泊画人-」(8月)・特別陳列「開山1300年記念 風越山-白山信仰の聖地-」(9月)・第19回現代の創造展(11月)
- 平成31年・令和元年度 文化トピック展示「飯田城と城下町」(7月)・自然トピック展示「南アル

- プスと中央アルプスの高山植物」(7月)・特別陳列「60年前の記憶 遙かなる遠山郷―塚原琢哉写真と民俗―」(9月)・巡回展「長野県の考古学―時代を映す“匠”の技―」(10月)・文化トピック展示「光明寺の文化財」(10月)・第20回記念現代の創造展(11月)・自然トピック展示「石ころから探る長野県の大地」(12月)・文化トピック展示「秋葉街道」(2月)
- 令和2年度 文化トピック展示「日夏耿之介と三島由紀夫、岸田國士」(5月)・特別陳列「生誕130年 日夏耿之介とともにめぐる飯田の町」(6月)・自然トピック展示「南アルプス石灰岩地の希少植物」(6月)・特別展「長野県信濃美術館交流名品展―東洋と西洋のうるわしき出会い―」(7月)・文化トピック展示「「国学」って何?」(8月)・企画展「竜丘児童自由画100周年展―自由の丘の熱き記憶―」(10月)・第21回現代の創造展(11月)・文化トピック展示「鍋の考古学-昔の人はどのようにコメを食べていたんだろう?」(11月)・自然トピック展示「飯田下伊那の鉦山と鉦石」(12月)・文化トピック展示「満洲は豊かだったか―入門・下伊那の満洲移民―」(3月)
- 令和3年度 自然・文化トピック展示「三六災から60年」(6月)・特別陳列「東山道と伊那谷の古代仏教文化」(7月)・没後110年特別展「菱田春草 故郷にっとう珠玉の名画」(10月)・文化トピック展示「伊那谷の富士信仰―不二道信者松下千代と仲間たち―」(10月)・自然トピック展示「生き物を未来に伝える―美博の標本づくり―」(10月)・第22回現代の創造展(11月)・文化トピック展示「飯田下伊那における疫病」(12月)・自然トピック展示「春を彩るスマレ」(2月)・文化トピック展示「元善光寺のご開帳」(3月)

3 施設の概要

□ 美術博物館

- (1) 場 所 飯田市追手町2丁目655番地7
- (2) 敷地面積 14,346.16㎡
- (3) 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階、地下1階
- (4) 建築面積 3,813.21㎡ (延床面積4,938.16㎡)
- (5) 総工費 2,400,000千円
- (6) テーマ 基本テーマ「伊那谷の自然と文化」
美術部門：自然と人間のフュージョン（融合）
博物館部門：きびしく豊かな自然とその中に生きる人間
- (7) 施設の内容
◎学芸空間：収蔵庫A・B・C、標本作成室、資料処理室、荷解室、石工室、燻蒸室、外来研究員室
◎利用者空間：常設展示室（自然・文化）、企画展示室（A・B）、美術展示室（菱田春草記念室）、プラネタリウム、市民ギャラリー、講堂、科学工作室、学習室、喫茶室
◎監理空間：会議室、館長室、学芸員室、事務集中管理室、機械室 ほか
- (8) 付属施設 日夏耿之介記念館 木造平屋造 62.94㎡
柳田國男館 木造2階建 245.40㎡

□ 上村山村文化資源保存伝習施設（通称 まつり伝承館天伯）（平成17年10月包含）

- (1) 場 所 飯田市上村753番地
- (2) 敷地面積 368.13㎡
- (3) 構 造 木造（一部鉄骨）2階建
- (4) 建築面積 463.32㎡ (延べ485.19㎡)
- (5) 総工費 110,931千円
- (6) 運営テーマ 上村の歴史・民俗・自然の姿と霜月祭を紹介し、その伝統を保存伝承する
- (7) 施設の内容 ◎利用者空間：展示室、伝習室
◎管理空間：会議室、事務室、倉庫ほか
- (8) 付属施設 山村ふるさと保存館ねぎや 木造2階建 311.00㎡

□ 南信濃民芸等関係施設（通称 遠山郷土館）（平成17年10月包含）

- (1) 場 所 飯田市南信濃和田1192番地
- (2) 敷地面積 2179.98㎡
- (3) 構 造 鉄筋2階建（一部3階建）
- (4) 建築面積 574.67㎡ (延べ735.05㎡)
- (5) 総工費 156,521千円
- (6) 運営テーマ 南信濃の歴史・民俗・自然の姿と霜月祭を紹介し、その伝統を保存伝承する
- (7) 施設の内容 ◎利用者空間：展示室、伝習室、体験室、休憩室兼資材室
◎管理空間：管理室、倉庫ほか

4 運営方針

(1) 開館以来の基本方針

- ① 100年後のあるべき姿を見つめながら、ハイレベルの施設づくりをめざします。
- ② 自然、人文（考古含む）、美術の3部門の特性を活かし、「伊那谷の自然と文化」への、それぞれの深い掘り下げと総合館としての横のつながりをめざします。
- ③ 「伊那谷の自然と文化」に関する研究条件を整備し、活発な学芸活動をめざします。
外部の専門家との連携を深め、多くの学識の提供を受けるとともに、市民のみならずの共同研究も行い、年報、研究紀要、伊那谷自然史論集やびはく学芸祭などで発表します。
- ④ 教育普及活動に重点をおき、学芸職員のほか、外部の専門家を招聘し、学術的に高度の内容を維持しつつ、一般に理解し易い講座を行います。
- ⑤ 所蔵者との信頼関係を深め、寄贈、寄託等を通して展示品の増加、充実に努めます。
- ⑥ 購入については、特に春草作品を優先し、緊急を要する大作については特別に対処できるよう対策を講じます。
- ⑦ 展示は、「常設展示（室）の内容の充実」、「特別展、企画展の計画的開催」、「良質な美術展覧会等の誘致開催」を目標として行っていきます。

(2) 飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プラン

美術博物館が、リニア時代において、博物館としての使命を果たしていくためには、市民のまちづくりや多様化する学びの欲求に応えていくことが必要です。そこで、平成28年度、当館の今後のあり方や事業活動における基本的な方向を示すビジョンとそれを達成するための取組を示す基本プランとを策定しました。平成29年度からプランに基づいた事業活動に取り組んでいきます。

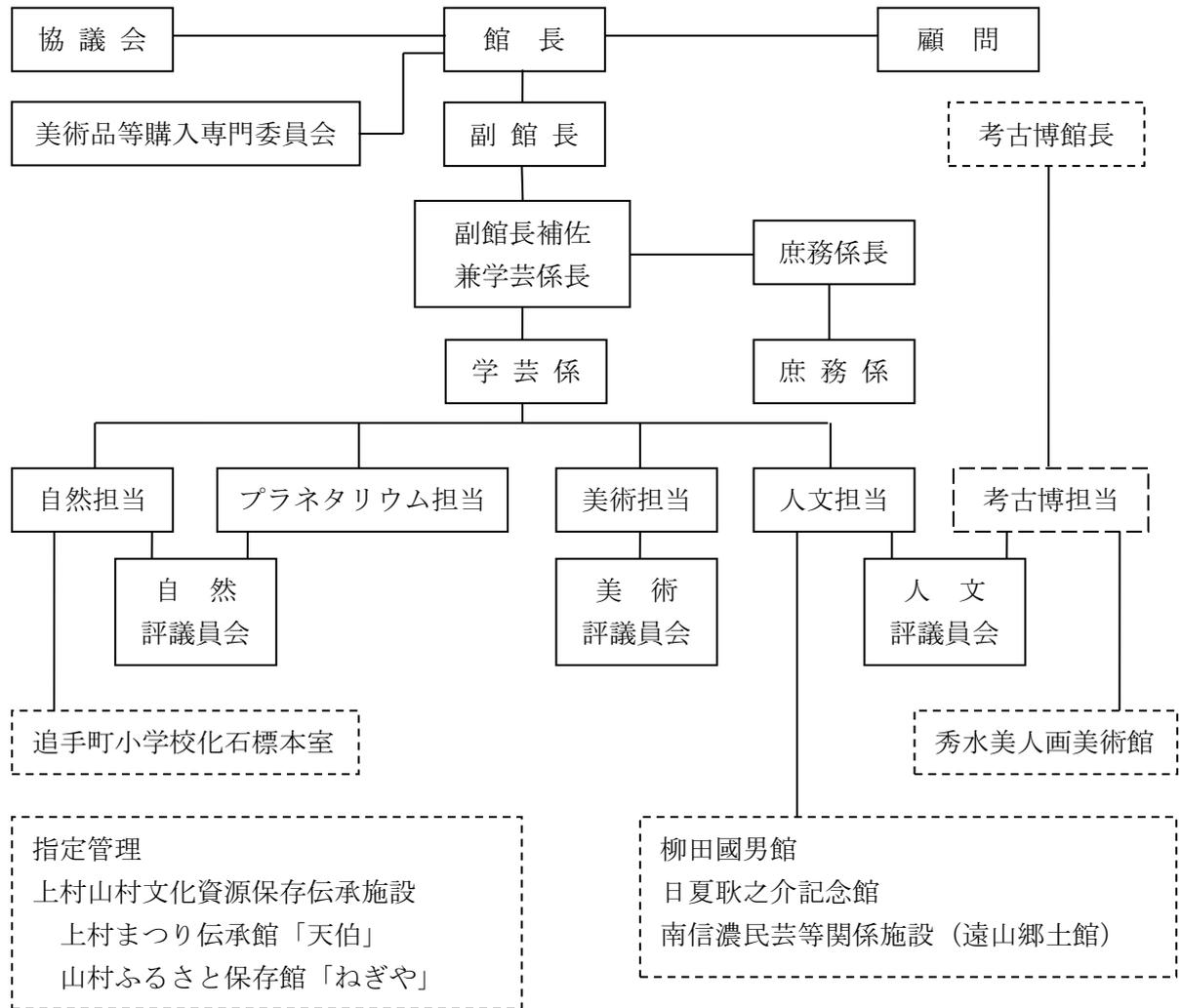
〈めざす姿〉

「リニアがもたらす大交流時代に、『飯田の価値と魅力』を発信し学びあい、未来をひらくミュージアム」

〈3つの重点目標〉

- 「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を高め、飯田の魅力を広く紹介します。
- 「地域振興の知の拠点」の一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探ります。
- 多様な学びに学術的に応え、文化の創造と地育力の向上に寄与します。

5 運営組織（令和3年度）



6 入館者数

(1) 入館者数（令和3年度）

（単位；人）

区分	美術博物館							
	展覧会				プラネタリウム			
	個人	団体	減免	計	個人	団体	減免	計
一般	10,889	1,714	2,093	14,696	1,022	42	569	1,633
高校生	59	0	15	74	18	0	9	27
小中学生	411	0	81	492	1,199	16	73	1,288
小計	11,359	1,714	2,189	15,262	2,239	58	651	2,948
無料	11,465	0	5,379	0	252	0	1,484	1,736
計	22,824	1,717	7,568	32,106	2,491	58	2,135	4,684

(2) 入館者状況

（単位；人）

区分	美術博物館		
	展覧会	プラネタリウム	計
平成29年度	33,208	13,497	46,705
平成30年度	30,361	12,471	42,832
令和元年度	31,795	12,647	44,442
令和2年度	22,863	4,812	27,675
令和3年度	32,106	4,684	36,790

(3) 上村、南信濃関連施設入館者数（令和3年度）（単位：人）

区 分	上村まつり伝承館天伯				遠山郷土館			
	個人	団体	減免	計	個人	団体	減免	計
一 般	126	39	0	165	619	90	1	710
小中学生	2	0	0	2	23	1	0	24
無 料	2	0	80	82	863	0	377	1,240
計	130	39	80	249	1,505	91	378	1,974

(4) 入館者状況（単位：人）

	上村まつり伝承館天伯	遠山郷土館
平成29年度	1,053	1,458
平成30年度	1,033	1,349
令和元年度	863	1,210
令和2年度	607	1,199
令和3年度	249	1,974

(5) 付属施設等入館状況（単位：人・回）

区 分	柳田國男館	日夏耿之介 記念館	追手町小学校 化石標本室	市民ギャラリー	
				展示回数	入場者数
平成29年度	2,556	994	553	38	16,410
平成30年度	2,686	1,191	739	36	17,635
令和元年度	3,008	1,218	1,146	36	17,963
令和2年度	1,442	602	367	16	6,631
令和3年度	1,657	630	597	16	5,966

7 教育普及活動（令和3年度）

(1) 館主催の講演会・講座・解説会・ワークショップ等

区 分	美術	人文	自然	全体	計
回 数(回)	42	34	131	2	209
出席者(人)	932	768	1620	474	3,794

(2) 地域・団体等への招聘・参加の教育普及活動

区 分	美術	人文	自然	計
回 数(回)	119	17	68	204
出席者(人)	2,764	471	2,369	5,604

8 刊行物一覧（新刊）

書籍名	発行所	刊行年	仕様	部数	頒価
研究紀要 第32号(美術・人文)	美術博 物館刊	2022年	A4判 モノクロ 150頁	450部	850円
菱田春草カレンダー（2022年）	美術博 物館刊	2021年	A3判変形成形 カラー	1,000部	1,000円
飯田市美術博物館 年報第31号	美術博 物館刊	2021年	A4判 モノクロ 114頁	370部	配布のみ
伊那谷自然史論集vol.23	美術博 物館刊	2022年	A4判 モノクロ 33頁	400部	450円
東山道と伊那谷の古代仏教文化	美術博 物館刊	2022年	A4判 カラー 12頁	1000部	配布のみ
展覧会図録「菱田春草」	美術博 物館刊	2021年	A4変形 カラー148頁	1,400部	2,200円

9 令和3年度 事業報告

(1) 展示事業

〈美術〉

1) 没後110年特別展「菱田春草—故郷につどう珠玉の名画—」

10/9～11/7 11,490人

春草の没後110年を記念する特別展。学生時代から晩年までの画業を通覧する回顧展として実施。美術博物館では初公開となる《黒き猫》をはじめとした《王昭君》《賢首菩薩》の3点の重要文化財や、《寡婦と孤児》《水鏡》《微笑》《菊慈童》《雀に鴉》など春草の代表作48点を一堂に会し、春草の画風変遷の軌跡を追った。また近年に発見された未完成作品や下絵類にも光をあて、関連資料82点を陳列して作品制作にいたる過程も紹介した。

教育委員会での取り組みとして、春草マンスリーを設定し、9月に展覧会に向けた学習活動を実施したほか、市内小中学校への事前学習として、ジュニア鑑賞ガイドを全児童生徒に配布し、学習用動画を小中学校へ配信した。また、事後学習として「菱田春草の名画鑑賞作文コンクール」を行った。

2) 「第22回 現代の創造展 —南信州のアートを共に創る—」

11/21～12/12 3,201人

飯田下伊那ゆかりの作家たちによる展覧会。日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書・コンテンポラリーの7部門で、実行委員会が作家を推薦して制作を依頼し、148点を展示した。

3) 菱田春草記念室常設展示

ご遺族所蔵のスケッチ・下絵類・未完成作品など多数の資料が飯田市美術博物館に寄託／寄贈され、展示できる資料が大幅に増加したことから、平成29年9月より菱田春草の常設展示を開始している。令和3年度の菱田春草常設展示は、同年秋に開催した春草没後110年特別展に多くの館蔵品を陳列するために、常設展示に陳列できる作品点数が少なくなった。そこで展示室を春草パートと飯田の美術パートの二部構成とし、飯田の美術パートはコレクションごとの特集展示とした。

①第26期 日本美術院の作家たち 3/20～4/18 418人(R3度分)

②第27期 春草と飯田の日本画家 4/24～5/23 889人

③第28期 春草と日夏耿之介 6/5～7/4 849人

④第29期 春草と京都の日本画家 7/17～8/15 1,510人

⑤第30期 春草と飯田の近世画家 8/28～9/20(8/21～9/12閉館) 680人

⑥第31期 春草と岩崎新太郎コレクション 11/21～12/26 3,402人

⑦第32期 春草と井村コレクション 2/19～3/21 547人

⑧第33期 春草と綿五原家コレクション 3/26～4/24 135人(R3度分)

4) 複製画で見る春草の名画2 1/15～2/13 (1/15～2/10閉館) 112人

菱田春草の代表作を紹介する複製画展示。また「子ども達の名画鑑賞学習展」として、没後110年特別展「菱田春草」の会期中に実施したワークショップや、菱田春草の名画鑑賞作文コンクール受賞作、小中学校での鑑賞授業の成果物も紹介した。なお子どもの作品展示が含まれるため観覧無料とした。

5) コレクション展示

飯田市美術博物館が所蔵する美術作品を用いたコレクション展示で、展示室Aまたは展示室Bにて実施した。新型コロナウイルス感染症予防対策のため④～⑥の会期が短縮となった。

①綿半野原コレクションの陶磁器2021 3/20～7/4 2,211人(R3度)

②新時代の造型4 昭和・平成世代の日本画 3/20～5/9 854人(R3度)

③新時代の造型5 昭和・平成世代の日本画 5/22～7/4 927人

④須田剋太 私の造型 7/17～9/26(8/20～9/12閉館) 2,470人

- ⑤藤本四八 鎌倉・むさしの佛たち 12/24～2/13(1/11～2/10閉館) 318人
- ⑥綿半野原コレクションの陶磁器2022 1/15～5/22 (1/15～2/10閉館) 860人(R3度)
- ⑦正宗得三郎 色彩の音楽 2/19～4/10 735人(R3度)
- 6) 子ども美術学校作品展 1/27～2/27(1/27～2/10閉館) 493人
5月～12月に実施した子ども美術学校における制作物の展覧会。児童数118人、5種550点の作品を展示した。なお当初は1/27～2/13の会期を予定したが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため1/15～2/10が休館となった。また会期後の市民ギャラリーの展示予定がキャンセルとなったため会期を2/27まで延長している。
- 7) 中学生ワークショップ「菱田春草未完成作品《雨中美人》のぬり絵にチャレンジ」作品展 2/15～3/21
没後110年特別展「菱田春草」の会期中に実施した中学生向けワークショップの成果物を展示した。当初は「複製画で見る春草の名画2」に併設したが、新型コロナウイルス感染症の影響で会期短縮となったため、同展の終了後にロビーへ移設して展示した。
- 8) 菱田春草の名画鑑賞作文コンクール受賞作品展 2/15～3/21
没後110年特別展「菱田春草」の会期中より実施した作文コンクールの受賞作品を展示した。これも当初は「複製画で見る春草の名画2」に併設したが、新型コロナウイルス感染症の影響で会期短縮となったため、同展の終了後にロビーへ移設して展示した。

〈人 文〉

1) トピック展示

4本の展示を実施。新型コロナウイルス感染防止対策による臨時休館が生じたため、会期の変更が生じた。

(前年度からの続き) 「満洲は豊かだったか—入門 飯田・下伊那の満洲移民」3/3～6/13
3,213人 (R3年度分)

前年度寄贈された満洲関係資料のお披露目を兼ね、飯田・下伊那の満洲移民の概要・特徴を『長野県満洲移民史 名簿編』をデータ化し紹介。

①「三六災害から60年」6/15～9/26 (8/20～9/12日閉館) 3,904人

水害に対する関心が高まる状況をふまえ、当地を襲った三六災害を特集。人的被害の状況を中心に、2011年の50年記念展では取り上げられなかった資料を交え、防災意識を高める機会とする。

②「伊那谷の富士信仰と旅—不二道行者松下千代と仲間たち—」10/9～12/12 15,359人

歴史研究所との連携事業。同所に寄贈された「松下家文書」のお披露目を兼ね、幕末に広まった民間の宗教運動の一端を、当地出身の宗教家松下千代(1799-1872)と信者たちの“旅”を通じて紹介。

③「飯田下伊那における疫病」12/18～3/6(1/27～2/10閉室) 739人

新型コロナウイルスの流行によって注目される感染症にスポットをあて、飯田下伊那を襲った疫病の歴史を紹介。

④「元善光寺のご開帳」3/3～5/30 683人(R3度分)

令和4年春に元善光寺でご開帳が行われるのに合わせ、中世以来全国に広まった善光寺信仰とともに、元善光寺のご開帳の歴史について紹介する。前年度延期となっていた展示。

2) 特別陳列「東山道と伊那谷の古代仏教文化」7/17～8/29 (8/20～8/29閉館) 1,649人

2021年は天台宗を日本に広めた伝教大師最澄(767-822)の1200年遠忌にあたる。伊那谷もまた最澄ゆかりの地であり、この機会に当地における古代仏教文化とその伝播の道について考えようとした。律令体制下における廃寺および、平安時代初頭における最澄の東国巡錫を契機に広まった当地の天台寺院を重点的に、発掘遺物や新出の仏像などの資料を30件程度紹介した。

3) 美博小・中・高校生学校写真賞 1/15～2/13 集計なし

小学生・中学生・高校生ごとに作品を募集し、本年度は129名174点の応募があった。「藤本四八記念大賞」はじめ「しんきん大賞」「水谷章人特別賞」「教育長賞」「館長賞」をそれぞれ選出

したが、表彰式は昨年度と同様に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。そのため受賞者の賞状は各学校を經由して授与していただいた。例年は応募作品の展示を美博ロビーと飯田信用金庫の本店ロビーで展示しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため飯田信用金庫での開催ができず、美博ロビーでのみ展示を行った（全作品展示：令和4年1月15日～2月13日 小学生全作品、中高生受賞作品のみ展示：2月15日～3月8日、中高生全作品：3月10日～21日）

4) その他 ロビー展「飯田お練り祭り」と御柱祭 3/8～4/24

飯田お練り祭りと御柱祭の開催に合わせ、それらの歴史を古写真やパネルを通して紹介した。

〈自 然〉

1) トピック展示

自然展示室のリニューアルを機に、展示室の一角に小企画展示を行う「トピックコーナー」を設けた。今年度は、昨年度からの継続の展示1本と新規展示3本を実施した。

①「飯田下伊那の鉱山と鉱石」12/8～6/13（1/19～2/5閉館） 4,363人

飯田下伊那地域にあった鉱山や鉱床とそこで出る鉱石について調査した研究成果を基に展示を企画した。鉱山をパネルで紹介するとともに、そこで産出する鉱石標本やその鉱石で作られた製品などの実物資料を展示した。また世界の鉱山と鉱石についても紹介した。

②「三六災から60年」6/15～9/26（8/21～9/12閉館） 3,904人

60年前の三六災害を気象・地形・地質的な視点から振り返り、とくに崩壊・土石流・氾濫という自然現象が、どのように準備・進行・発展していき、災害につながっていったのかを紹介した。また、人文部門や飯田市危機管理室と連携し、文化展示室で歴史・民俗的な視点から展示したり、ロビーで防災グッズを展示したり、文化講座で過去・現在・未来を考える講座を行った。

③「生き物を未来に伝える ー美博の標本づくりー」10/9～1/30（1/11～1/30閉館）

15,751人

交通事故やガラス窓への衝突などが原因で死んでしまった鳥や動物たちを、科学的価値のある標本にして将来へ伝えていくプロジェクトを行っている。その中でつくられた剥製や骨格標本は、伊那谷の「今」を記録する大切な資料である。ボランティアの人たちと一緒に作成した、鳥や哺乳類の標本を紹介した。

④「春を彩るスミレ」2/1～5/29（2/1～10閉館） 3,487人

スミレは、小さく可憐な春の花である。全国に約60種類、長野県では42種類の自生が確認されている。展示では、本州中部のスミレたちを写真や標本で紹介し、したたかに生きる小さな花の魅力にせまった。

2) 自然展示室展示変更

①リーフレット配布コーナー設置 設置時期 令和3年4月～

自然の企画展等で過去に作成したリーフレット等をまとめて配布できるラックを、自然展示室内に設けた。

②季節の自然ひとつまみパネルの設置

令和3年1月から毎月その時期の身近な自然を紹介するパネルを、自然展示室入り口壁面に設置している。令和3年4月「美博周辺で見られるスミレ」、5月「里山のヘンテコな虫たち」、6月「カタツムリのひみつ」、7月「中央アルプスの高山植物」、8月「夏の畦を彩る花々」、9月「渡りをするチョウ アサギマダラ」、10月「バッタのヒミツ」、11月「枯葉色のウスタビガ」、12月「冬に着飾るカモの魅力」、令和4年1月「冬の虫たちの過ごし方」、2月「雪の上の足跡」、3月「春一番に咲くオウレンの花」

3) 追手町小学校化石標本室の公開

一般公開 (4/25、5/2・3・5、6/6・27、7/18・25、8/8・13・14・15、9/19・20・23、10/10・17・24、11/3・7・21、3/13・20)

※一般公開のほか、学校など団体等の希望により公開および展示解説した。一般公開のうちの12回で化石レプリカづくりや化石クリーニング体験のワークショップを開催した。

開室日数合計41日、観覧者合計597人、ワークショップ参加者のべ189人

(2) プラネタリウム投影事業

1) プラネタリウム投影

①投影回数・観覧者数

投影回数278回 観覧者数4,684人

②一般投影

土・日・祝日並びに長期休暇期間に1日2回の投影をおこなった(コロナ対策で投影回数を減らした)。12月から1日3回の投影へ変更した。8/21~9/12、1/12から5/13までコロナの感染拡大のため閉室となった。

投影番組

- ・ We are ASTRONOMERS ~僕らは天文学者~
- ・ ちびまる子ちゃん それでも地球は回っている
- ・ ヤドカリくん、ほしをみに
- ・ 宇宙・究極観測 ~探せ! ブラックホール~
- ・ イマジン・サ・ムーン 月への想い
- ・ 銀河の渚で
- ・ 星空の幻灯会
- ・ ひかりのせかいへ
- ・ ガイアの銀河

③予約投影

平日10:00~17:00の時間帯に、幼稚園、保育園、小学校や一般の団体を対象に予約を受けて投影をおこなった。

④特別投影 観覧者数70人

毎月第4土曜日16:00の回を特別投影枠とし、話題の天文現象や季節の行事にあわせたテーマの投影、体験型の投影など、特別な内容の投影をおこなった。職員一人のみという体制となってしまう、夏のオリンピック投影イベントもあり、特別投影は3回のみとなった。

「月食のおはなし」 5/23

「アロマでぐっすりプラネタリウム」 11/23

「2022年の天文現象」 12/26

⑤東京2020大会コミュニティライブサイト 7/27~8/8 投影回数18回 観覧者数190人

オリンピック東京大会のコミュニティライブサイトとしてプラネタリウム室でドーム映像を投影するイベントを行った。

2) オリジナル番組の制作と投影

令和3年度も新規番組の制作はおこなわず、これまでに制作したオリジナル番組を一般投影や予約投影で利用した。

(3) 教育普及事業

〈全体〉

1) わくわく美博で夏休み 7/17(土)~8/31(日) 358人

美術博物館職員等によるワークショップを開催。コロナ対策として分散開催としたが、コロナ感染拡大のため8月20日以後は休館となったため実施できなかった。

- ①へんてこマスクをつくろう (7/31)
- ②七夕飾りをつくろう (7/31)
- ③飯田城たんけん (8/7)
- ④化石レプリカをつくろう (8/9・14)
- ⑤ミクロの世界を探検しよう (8/15)
- ⑥プラネタリウム (中止)
- ⑦天文工作 (中止)
- ⑧まが玉をつくろう (中止)
- ⑨マンダラぬり絵 (中止)
- ⑩ガラスの小びんでコケリウム (中止)
- ⑪4館スタンプラリー (8/20以降中止)

2) 第14回びはく学芸祭

びはく学芸祭は、学芸員・専門研究員と地域の研究団体の方々による研究成果をわかりやすく発表する機会として開催してきた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、当初予定していた口頭発表をWeb配信とした。口頭発表2件、ポスター発表17件。

口頭発表(web配信) 令和4年2月6日(日)～3月6日(日) 視聴116人

ポスター展示 令和4年1月29日(土)～3月6日(日)

〈口頭発表〉

織田顕行(美術博物館学芸員) 特別陳列「東山道と伊那谷の仏教文化」ができるまで—仏像調査の蓄積とその活用—

小泉明裕(美術博物館学芸員) 新たに判明した富草の海の前生物—発掘から展示まで

〈ポスター発表〉

【自然分野】

四方圭一郎(美術博物館学芸員) 身近な場所に生えるスミレ12種の見分け方

小泉明裕(美術博物館学芸員) 新たに判明した富草の海の前生物—発掘から展示まで—

村松武(美術博物館学芸員) 赤石山地の地質的枠組みをつくった1500万年前の変動

田中良(美術博物館専門研究員)・武智泰史(倉敷市自然史博物館)・石山大三(秋田大学国際資源学研究所) 天龍村神豊太陽鉱床の錫鉱化作用について

米山富和(美術博物館専門研究員)・高橋真子(美術博物館専門研究員) 生き物を未来に伝える—美博の標本づくり—

【人文・考古分野】

織田顕行(美術博物館学芸員) 特別陳列「東山道と伊那谷の仏教文化」ができるまで—仏像調査の蓄積とその活用—

近藤大知(美術博物館学芸員) コロナ禍で見直されたもの

青木隆幸(美術博物館専門研究員) オンラインによる日本近現代史連続講座の試み—満蒙開拓平和記念館「満州事変80年」特別展

岡庭圭佑(伊那谷民俗学研究所) 御柱祭と諏訪信仰

米山梓(伊那民俗学研究所) 長野県に於ける厄落とし習俗

馬場保之(考古博館長) 飯田市内の前方後円墳

吉川金利(考古博学芸員) 黒田大明神原B遺跡160号住居址出土土器について—弥生時代中期週末の土器様相—

伊那谷地名研究会 自らの足で自らの地に立つ「地名への眼差し」—平成から令和へ「地名に学ぶ

地域への自覚と誇り」－

【美術分野】

榎村洋介（美術博物館学芸員） 自由画以前の木下紫水－竜丘小学校学校日誌から

小島淳（美術博物館学芸員） ー没後 110 年特別展からー菱田春草の古典引用

加納向日葵（美術博物館学芸員） ー没後 110 年特別展からー菱田春草の作品にみる金銀使用の意図

松井美保（美術博物館客員研究員） ー没後 110 年特別展からー東京美術学校生徒による室内空間の表現方法について

〈美術〉

1) 美術講座「美に入り彩に入り」

①「日本絵画の色彩」滝沢具幸（美術博物館館長） 6/5 23人

②「仲村進さんの話」榎村洋介（美術博物館学芸員） 7/3 23人

2) 春草講座「名画探訪」

①「名画探訪 六歌仙」松井美保氏（美術博物館客員研究員） 5/19 22人

②「名画探訪 王昭君」松井美保氏（美術博物館客員研究員） 6/23 33人

3) 没後110年特別展「菱田春草」関連事業

①「記念講演会」西田俊英氏（武蔵野美術大学教授・日本美術院理事） 10/9 65人

②名画解説会

・「黒き猫」小島淳（美術博物館学芸員） 10/10 14人

・「落葉」加納向日葵（美術博物館学芸員） 10/17 8人

・「賢首菩薩」小島淳（美術博物館学芸員） 10/24 12人

・「菊慈童」榎村洋介（美術博物館学芸員） 10/31 13人

・「王昭君」松井美保氏（美術博物館客員研究員） 11/7 12人

③菱田春草ジュニア鑑賞ガイドと事前学習動画の配信

・ジュニア鑑賞ガイド 9/1～配布

・鑑賞講座 9/17～オンライン配信

④菱田春草の名画鑑賞作文コンクール

・募集 10/9～11/30 小学生131点、中学生251点

・展示 2/15～3/21（ロビー）

4) 美術鑑賞の会

・第34回「菱田春草－没後110年・故郷につどう珠玉の名画－」

小島淳（美術博物館学芸員） 10/15 20人

・第35回「正宗得三郎－色彩の音楽－」小島淳（美術博物館学芸員） 2/25

※新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止※

5) 日本画実技講座

・講師 滝沢具幸（美術博物館館長）

・期日 2/26・2/27 ※新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止※

6) 子ども美術学校

小学生3～6年生を対象とした図画工作の基礎講座。5クラスで各7回を予定したが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため各6回に縮小して実施した。

・講師 手塚俊尚（美術博物館専門研究員）

・期間 5～12月

・参加 在籍118人、延べ678人 5種550点の作品を製作

・展示 2/11～2/27（市民ギャラリー）

7) 中学生ワークショップ「菱田春草未完成画《雨中美人》のぬり絵にチャレンジ」

・講師 手塚俊尚（美術博物館専門研究員）

・実施 10/16

・参加 9人

・展示 2/15～3/21（ロビー）

〈人 文〉

1) 美博文化講座

- ①「入門 飯田・下伊那の満洲移民」青木隆幸（美術博物館専門研究員）4/18AM/PM 計61人
飯田ケーブルテレビにて放送
- ②「柳田学と後藤民俗思想史をつなぐ—『信州随筆』と『遠山物語』を中心に—」
〈伊那民俗学研究所共催〉小田富英氏（『柳田國男全集』編集委員）5/16 50人
- ③「日夏耿之介の足跡を訪ねて」（見学会）織田颯行（美術博物館学芸員）6/13 18人
- ④連続講座「学際的に考える近世の洪水—戊の満水に学ぶ—」近藤大知、青木隆幸、村松武
7/18AM/PM、23 計125人 飯田ケーブルテレビにて放送
- ⑤「東山道と伊那谷の古代仏教文化」織田颯行（美術博物館学芸員）
※中止→YouTube チャンネルおよび飯田ケーブルテレビにて録画番組放送・配信
- ⑥「飯田城跡と城下町を歩く」（見学会）織田颯行（美術博物館学芸員）9/23、10/14 計27人
- ⑦「伊那谷の富士信仰 —不二道信者松下千代の旅—」
〈飯田市歴史研究所共催〉宮崎ふみ子氏（恵泉女子大学名誉教授）
※飯田ケーブルテレビにて録画番組放送 10/31 40人
- ⑧「大日本実行会と伊那谷における世直しの思想」松上清志氏（美術博物館評議員）
※飯田ケーブルテレビにて録画番組放送 11/14 27人
- ⑨「飯田下伊那における疫病」講師：近藤大知（美術博物館学芸員）12/19 18人
飯田ケーブルテレビにて放送
- ⑩「女性たちは善光寺をめざす」講師：青木隆幸（美術博物館専門研究員）3/13
※中止→YouTube チャンネルにて期間限定で配信（再生回数上下編計232回）

2) ゼロから始める古文書

長年続けてきた古文書に関する講座を再編し、歴史研究所との連携事業として実施。

1班 毎月第1水曜日（ただし10月は13日） ◆9月1日、2月2日は中止

2班 毎月第3土曜日（ただし1月は23日） ◆8月21日、1月15日、2月19日は中止

3) 遠山郷土館学習講演会

パネル展示や遠山に関するテーマに沿って実施。

「王子製紙と遠山の林業—巨大企業の進出がもたらしたもの—」太田仙一（飯田市歴史研究所研究員）4/17 17人

「伊那谷の災害伝承」近藤大知（美術博物館学芸員）6/19 20人

「私の鉱山を調べる旅から」田中良（美術博物館専門研究員）11/14 13人

「御柱ってなに？」近藤大知（美術博物館学芸員）3/21 12人

〈自 然〉

1) 講演会・シンポジウム

- ①「環境と植物」（伊那谷自然友の会と共同開催）〈講師はオンライン講演〉
藤井伸二氏（人間環境大学准教授）6/26 34人
- ②トピック展示スマイル記念講演「日本のスマイル時空の旅」〈オンライン開催〉
いがりまさし氏（自然系映像音楽作家）2/19 106人

2) 自然講座 〈伊那谷自然友の会共催〉

〈生物〉

- ①「日本の鳥の今を調べる —全国鳥類繁殖分布調査報告—」植田睦之氏（バードリサーチ）
オンライン開催 10/16 46人
- ②「中央アルプスの自然～駒峰ヒュッテから～」後藤 寛氏（駒峰山岳会代表）11/13 22人
- ③「南アルプスの博物学」四方圭一郎（美術博物館学芸員）12/18 49人

- ④「天竜川水系の魚たちのいま」柳生将之氏（環境アセスメントセンター）1/16 オンライン開催 20人
- ⑤「温暖化と外来種が脅かす長野県の生態系」高野宏平氏（長野県環境保全研究所）2/5 25人
- ⑥「松ぼっくりからみる針葉樹の生き方」清水岳志氏（伊那谷自然友の会）2/26 18人
〈地質〉
- ①「地球の屋根 ～チベットを歩いて～」松島信幸氏（美術博物館顧問）4/25 54人
- ②「長谷川コレクションの魅力」小泉明裕（美術博物館学芸員）6/27 33人
- ③「日本にいたオオカミの自然史」長谷川善和氏（美術博物館顧問）7/25 44人
- ④「伊那谷の鍾乳洞 -箕輪町熊倉沢を中心に-」北澤夏樹氏（伊那谷自然友の会）9/26 30人
- ⑤「諏訪湖の堆積物から探る過去2万年の古環境変遷」葉田野 希氏（長野県環境保全研究所）11/7 26人
- ⑥「伊那谷に大被害を与えた167年前の安政東海地震」坂本正夫氏（美術博物館客員研究員）9/4延期→1/22中止
- ⑦「伊伊那谷の形成～1500万年前から現在まで～」村松 武（美術博物館専門研究員）1/29～2/28映像配信にて実施 のべ311回視聴
- 3) 伊那谷自然史発表会 〈伊那谷自然友の会共催〉 3/20 中止

4) 子ども理科教室

「恐竜の指は何本？ 恐竜の子孫、ニワトリの骨格標本を作って指の数を数えてみよう」
2/20延期→3/19 27人

5) 子ども科学工作教室 <主催・子ども科学工作教室運営協議会> 会場 Sバード 2/5

新型コロナウイルス感染症予防対策のため現地での製作は中止 材料を参加者に配布し、個々に工作することになった（受講申込者81名）。

6) 微の世界をさぐる-電子顕微鏡公開-

昆虫の目、花粉、微化石など電子顕微鏡を使って微の世界を紹介する。
4月～11月の第1・3日曜日 22回 133人（のべ）

〈プラネタリウム〉

1) 星空観望会

- 「春の星座と星団を見よう」 5/15 20人
「伝統的七夕を楽しもう」 8/14 13人
「夏の星座と天の川を見よう」 9/7 中止
「秋の星座と惑星を見よう」 11/6 21人
「冬の星座とカノープスを見よう」 2/26 中止

2) プラネタリウムまつり

新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

3) 「飯田・宇宙教育」

- 「星座早見盤を使ってみよう」10/10 5人
「かわらんべ講座」5/7 9/22 42人
「スタンプラリー」 スタンプカード1,777枚配布

(4) 調査・研究事業

〈全体〉

- 1) 研究紀要32号の発刊 3月 450部
・ 榎村洋介 自由画教育以前の木下紫水

- ・加納向日葵 地域ゆかりの作家菱田春草を対象とした鑑賞教育の実践
没後一一〇年特別展「菱田春草－故郷につどう珠玉の名画－」における取り組み
 - ・織田顕行 平安時代の伊那谷における顕密寺院の動向－有力寺院の仏像群からみる－
 - ・近藤大知 飯田下伊那の牛痘法の導入時期について
 - ・青木隆幸 水戸浪士通行と飯田藩
 - ・鵜養美冬 松尾系小笠原家の三月十五日の祭祀と宝刀鶯丸友成について
- 2) 伊那谷自然史論集23号の発行 3月 400部
〈論文・報告〉
- ・坂本正夫 松川町部奈のミソベタ層に発見した多数の埋もれ木跡
 - ・田中 良・武智泰史・石山大三 長野県天龍村神豊太陽鉱床産の鉱石鉱物について
〈観察記録ノート〉
 - ・長野県上伊那郡飯島町におけるタイワンタケクマバチの記録
 - ・長野県上伊那町飯島町におけるそばに放火するクジャクチョウの記録
 - ・長野県飯島町でソバに訪花したキベリタテハ
 - ・長野県飯田市におけるマミジロノミバッタの記録
 - ・長野県飯田市上郷飯沼におけるケリの繁殖記録
- 3) web上での情報発信
『飯田市美術博物館研究紀要』『伊那谷自然史論集』の本文を、科学技術振興機構が運用する同種のサイト「J-stage」上に公開中。
館蔵の文書目録をホームページ上に公開

〈美術〉

- 1) 菱田春草および春草に関わる作家
- ①菱田春草作品の調査研究
 - ②菱田春草未完成作品の調査研究
 - ③菱田春草関連資料の調査研究
- 成果発表
- i 没後110年特別展「菱田春草」図録
「古画と写実 菱田春草の画業」小島淳（美術博物館学芸員）
「日本画家・菱田春草の船出－新しい絵画の創造を目指して」
松井美保（美術博物館客員研究員）
「朦朧体期の菱田春草－混濁を超えて」榎村洋介（美術博物館学芸員）
「《黒き猫》誕生の秘密」小島淳（美術博物館学芸員）
 - ii 第14回びはく学芸祭（ポスター発表）
「－没後110年特別展から－菱田春草の古典引用」小島淳（美術博物館学芸員）
「－没後110年特別展から－菱田春草の作品にみる金銀使用の意図」
加納向日葵（美術博物館学芸員）
「－没後110年特別展から－東京美術学校生徒による室内空間の表現方法について」
松井美保（美術博物館専門研究員）
- 2) 郷土美術
- ①自由教育についての調査研究
- 成果発表
- i 飯田市美術博物館研究紀要32号
「自由画教育以前の木下紫水」榎村洋介（美術博物館学芸員）
 - ii 第14回びはく学芸祭（ポスター発表）
「自由画以前の木下紫水－竜丘小学校学校日誌から」榎村洋介（美術博物館学芸員）
- ②郷土近世南画の研究

3) 鑑賞教育

- ①小中学校と連携した春草作品の鑑賞教育の実践研究
成果発表

i 飯田市美術博物館研究紀要32号

「地域ゆかりの作家菱田春草を対象とした鑑賞教育の実践

没後一一〇年特別展「菱田春草－故郷につどう珠玉の名画－」における取り組み」

加納向日葵（美術博物館学芸員）

4) 造形教育

- ①小中学生・保育園児に対する造形教育の教材研究

〈人 文〉

1) 社寺調査

市内：琴原神社（川路 氏子総代会からの依頼）

郡内：塩泉院（大鹿村教育委員会からの依頼）

郡外：中川村大草観音堂（中川村歴史民俗資料館からの依頼）

「諏訪神仏プロジェクト」関連調査：平福寺、照光寺（岡谷市）、仏法紹隆寺（諏訪市）、高栄寺（富士見町）、諏訪市博物館

2) 民俗調査

- ①上郷飯沼の民俗調査 *柳田國男記念伊那民俗学研究所との共同調査
令和5年度の報告書刊行をめざして調査とまとめを実施。

②民俗映像の編集・整理

〈自 然〉

1) 学芸員・専門研究員による調査研究

①「遠山川流域の巨大崩壊と天然ダム」地域：飯田市南信濃

②「領家帯の火成活動の特徴を反映する神豊太陽タングステン鉱床の生成環境」地域：天龍村遠見～阿南町新野

③「南アルプス高山帯の蛾類相」地域：仙丈ヶ岳、尾高山、烏帽子岳・三伏峠、荒川岳

④「天竜川における鳥類標識調査」地域：飯田市川路

⑤「富草層群相当層の古生物調査」地域：飯田市千代、阿南町富草・北条、伊那市藤沢

2) 市民の協力を得た地域史研究事業

①天竜川における鳥類標識調査

②鳥類ほ乳類の剥製・骨格標本作成

〈プラネタリウム〉

1) 連絡活動・研修会

「長野県プラネタリウム連絡協議会研修会」11/12、2/18 オンライン開催

(5) 資料収集・保管事業

部門ごとに資料の購入や寄贈・移管受入、寄託を受けた。

1) 寄 贈

〈美 術〉

- | | |
|---------------|-----|
| ・鈴木芙蓉筆《琅玕命船図》 | 1 幅 |
| ・下村観山筆《寒林月》 | 1 幅 |
| ・山田敬中筆《帰樵山水図》 | 1 幅 |
| ・野田九浦筆《田家夏暁》 | 1 幅 |

- ・菱田武夫筆《紅梅》 1幅
- ・石井柏亭筆《大平風景》 1面
- ・丸山晚霞筆《風景》 1面
- ・鶴田吾郎筆《農婦》 1面
- ・正宗得三郎筆《天龍峽》 1面
- ・関龍夫筆《天龍峽》 1面
- ・鈴木芙蓉筆《東方朔図》 1幅
- ・鈴木芙蓉筆《万事吉兆図》 1幅
- ・佐竹蓬平筆《太真王夫人図》 1幅
- ・唐沢湖城筆《百童之図》 1幅
- ・原蓬山筆《柳村山水図》 1幅
- ・富岡鉄斎筆《浪合旧蹟図》 1幅
- ・井伊香溪旧蔵粉本資料 1式

〈人 文〉

- ・堀親昌書「初恋」 短冊 1幅
- ・伝唐寅筆「岳陽楼眺望図」「醉翁亭宴飲図」 双幅
- ・堀親義書「追懐の詩」 双幅
- ・太宰春台書「奇石之賛」 1卷
- ・太宰春台書簡（水野内元朗宛） 1幅
- ・太宰春台書簡（渡辺蒙庵宛） 1幅
- ・平田篤胤筆 神代文字「天宇受賣命天石門開乃時尔神懸酒御歌」 1幅
- ・平田鉄胤筆「淤能碁呂之図」 1幅
- ・本居宣長著『古今集遠鏡』写本 全6冊
- ・「信濃国大地震大災水難地方全図」 1枚

2) 購 入

〈美 術〉

- ・鈴木芙蓉《鳴門暁景図》 1幅
- ・野本次男宛菱田春草書簡 1卷
- ・『國華』1～179号のうち 115冊

3) 資料の修復

〈美 術〉

①表装

- ・菱田春草《五味子に小禽》 1幅

4) 館蔵資料の登録・データベース化

〈美 術〉

- ・藤本四八写真フィルム（東京） 427点

〈自 然〉

- ・微化石 20点
- ・植物さくよう 126点
- ・鳥類剥製・骨格 34点
- ・ほ乳類剥製・骨格 18点

5) 写真・映像資料のデジタル化および編集

〈人 文〉

- ・遠山霜月祭 HDCAM 素材 デジタルデータ化作業

6) 資料貸し出し

〈美 術〉

- ・鈴木芙蓉《那智瀑泉真景図》・西郷孤月《富士遠望》

特別展「絵になる自然～生きとし生けるものへの賛歌～」(秋田市立千秋美術館9/25～11/7、いずれも半期のみ展示)

- ・菱田春草《羅漢》(寄託)・菱田春草《落葉の図》西郷孤月《紅葉の図》(対幅・寄託)・菱田春草《湖辺飛雁》横山大観《海濱の月》(対幅)・菱田春草《山水》下村観山《楼閣》(対幅)・菱田春草《布袋之図》・菱田春草《春暁》・菱田春草《桜(未完成)》・菱田春草《牧童(未完成)》・菱田春草《五月雨(未完成)》・下村観山《雨後富士》

没後110年記念「菱田春草と画壇の挑戦者たち～大観、観山、その後の日本画」(水野美術館10/9～12/12、いずれも半期のみ展示)

〈人 文〉

- ・中馬絵馬(育良神社寄託)

特別展「はじめてのとよた史ー『新修豊田市史』通史編刊行記念ー」(豊田市郷土資料館令和4年1月22日～3月20日)

7) 他機関・学習・研究団体等への協力

①教育機関への支援

〈全 体〉

- ・学芸員実習の受け入れ

〈美 術〉

- ・下伊那教育会菱田春草研究委員会
- ・下伊那教育会図工美術教育研究会
- ・小中学校との菱田春草鑑賞授業の実施

〈人 文〉

- ・小中学校総合学習(飯田東中学校、旭ヶ丘中学校、追手町小学校、遠山中学校)
- ・小中学校社会科学習(三穂小学校)
- ・南信州観光公社ツアー(飯田市観光課)
- ・下條史学会
- ・伊賀良笠松大学(伊賀良公民館)

〈自 然〉

- ・天竜川総合学習館かわらんべ講座への協力
- ・子どもの森公園観察会への協力
- ・小中学校への協力(竜丘小学校、追手町小学校、飯田西中学校、旭丘中学校など)
- ・公民館・自治振興センターへの活動協力(川路、鼎、伊賀良など)
- ・保育園・幼稚園への協力

〈プラネタリウム〉

- ・天竜川総合学習館かわらんべ講座への協力
- ・小中学校への協力(浜井場小学校など)
- ・公民館・自治振興センターへの活動協力(千代、南信濃など)
- ・おもしろ科学工房への協力

②各種団体

〈全 体〉

伊那谷研究団体連絡協議会

〈美 術〉

春草会、春草公園を愛する会、飯田鉄斎愛好会、竜丘地区自治会の自由画保存顕彰事業など

〈人 文〉

伊那谷研究団体協議会、柳田國男記念伊那民俗学研究所、南信州民俗芸能継承推進協議会、遠山常民大学、遠山ガイドの会、長野県立歴史館資料委員、諏訪市文化財専門審議会、諏訪神仏プロジェクト

〈自 然〉

・伊那谷自然友の会、はなのき友の会、松本むしの会、金属・鉱物の会、下伊那教育会、長野県ジオパーク協議会、南アルプス自然環境保全活用連携協議会など

8) 関連事業

〈美 術〉

・春草マンスリーと春草ウィーク

春草の誕生日（9月21日）と命日（9月16日）のある9月を菱田春草に親しみ学ぶ月とし、教育委員会で事業を行った。また、誕生日と命日に近い1週間（9月15日～22日）を春草ウィークとして美術博物館の観覧料を無料とした。

【教育委員会の取り組み】

- 1) 菱田春草筆《雨中美人》の飯田市有形文化財指定（生涯学習・スポーツ課）
 - 2) 春草が生きた時代－ゆかりの地を訪ねる－ウォーキング（生涯学習・スポーツ課）
 - 3) 菱田春草かるた読み札募集（公民館）
 - 4) 市民大学講座「菱田春草－新しい日本画を創り出す努力、その生き方－」（公民館） ◆中止
 - 5) テーマ展示「春草没後110年」（図書館）
 - 6) 菱田春草紙しばい（図書館）
 - 7) 春草クイズ（図書館）
 - 8) 教育委員会職員研修会（生涯学習・スポーツ課） ◆講座は中止、資料を配付
- ・「障がい者文化芸術作品展」審査への協力（社会福祉協議会）
 - ・「防犯ポスター」審査への協力（飯田警察署）
 - ・「税に関するポスター」審査への協力（飯田市税務課）

〈人 文〉

- ・「ゼロから始める古文書」（歴史研究所）
- ・遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ（企画課）
- ・南信濃地区芸術祭への展示協力（南信濃公民館）
- ・IIDA学輪大学（企画課）
- ・繋がり創出による南信州民俗芸能継承推進協事業（南信州民俗芸能継承推進協議会）
- ・「お練りサロン」への展示協力（南信州民俗芸能継承推進協議会）

〈自 然〉

- ・南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの取り組み（環境課ほか）
- ・南アルプスユネスコエコパークの取り組み（環境課ほか）
- ・飯田市環境チェッカー（環境課）
- ・飯田市の環境保全対策（環境課）
- ・飯田市の防災対策（交通防災課）
- ・遠山郷エコパーク・ジオパーク フィールドスタディー（企画課）
- ・IIDA学輪大学（企画課）